

# 簡易構造物によるアサリ微小稚貝 発生促進技術研究

(予算区分 国委託 研究期間 平成16~17年度)  
担当：水産試験場浜名湖分場

## 【研究の背景とねらい】

- ・浜名湖のアサリの漁獲量は豊漁期には約8千トンありましたが、近年2~3千トンに低迷しています。
- ・浜名湖のアサリ浮遊幼生は全国の主要産地と同程度に十分発生していると思われませんが、浮遊幼生と着底稚貝の多少は必ずしも一致せず、アサリ幼生の着底と生残に問題があるものと考えられました。また、アサリ資源が減少した漁場には、潮流が速く、湖底が不安定な水域が多くみられます。
- ・そこで、簡易構造物(竹柵、人工草体)を設置し、潮流の緩和と湖底の安定化により幼生の着底促進及び稚貝の生残率向上を目指します。

## 【研究成果】

- ・着底直後(H16年9月29日)の稚貝数は対照区よりも竹柵区及び人工草体区の方が多く、統計的に有意な差はないものの簡易構造物による幼生の着底促進効果があることがわかりました(図1)。
- ・着底期後、殻長1mmサイズ(H17年6月20日)に達した稚貝密度は対照区よりも人工草体区で高く、人工草体は着底後の稚貝生残に効果があると考えられました(図2)。

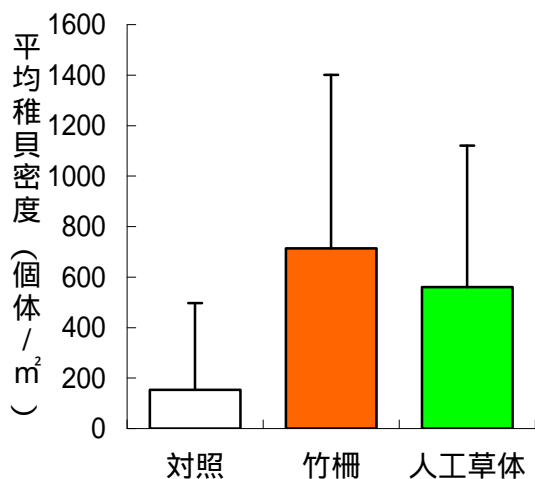


図1 殻長0.5mm以下の平均着底稚貝の密度

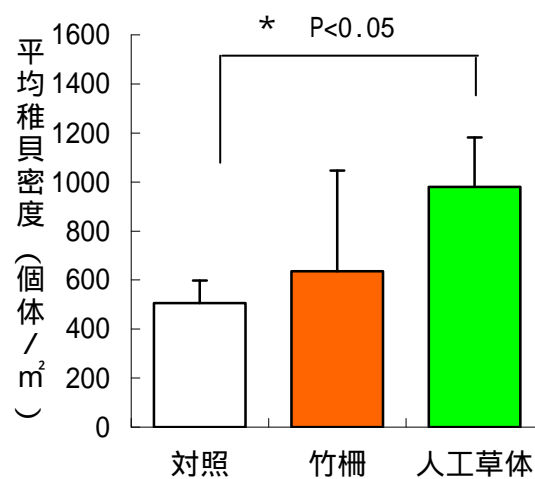


図2 殻長1~2mmの平均稚貝の密度

## 【研究成果の普及方法】

- ・人工草体など簡易構造物の設置により、稚貝の生残を高めることができる可能性があることから、今後、漁業者と協力しながら、より効果的な増殖方法を検討します。
- ・殻長1~2mm以降のサイズについては、実験区と対照区で差が見られなかったことから、増殖効果を得るには、今後、殻長1mm以降の生残について検討する必要があります。
- ・人工草体で稚貝発生促進効果が認められたことから、アマモ場の保全も稚貝の生残向上に役立つと思われることを各種会合などを通じて採貝漁業者に伝えています。

(作成 平成18年4月)